梓 AZUSA

CPLER Newsletter
2018.9.1 No.27

「梓」… 法曹分野に従事する早稲田大学校友（稲門法曹）と早稲田大学大学院法務研究科修了生・在学生および早稲田大学法学学術院教員を繋ぐ、法学情報・コミュニケーション誌。

早稲田大学大学院法務研究科　特別講演会

講師　宮﨑　誠 弁護士

「法曹のニーズと養成課程への期待」

法学部2年　武井（たけい）　翼（つばさ）／酒井（さかい）　健史（たけし）／坂下（さかした）　秀明（ひであき）

去る2018年5月9日(水)、小野梓記念講堂で宮﨑誠先生（日本弁護士連合会元会長）の講演会でお話を伺いました。内容は、先生ご自身のご略歴や弁護士の仕事内容、日本の訴訟制度などについてでした。キャリア官僚として就職を果たしたものの、父親の会社の倒産を契機に弁護士に興味をもち、倒産専門弁護士として民事再生案件等で活躍されたり、反社会勢力の事務所へ単身で乗り込むといった武勇伝や寂しくなって立ち上げた共同事務所の話など、人情味あふれるお話でエピソードに富んでいました。

私たちは、弁護士の活動と言えば法廷での活動ばかり思い浮かべますが、今回のお話をお聞きして、弁護士が活躍できる場所の広さや取り組んでいかねばならない課題の多さを知ることができました。その中でも特に気になったお話を記します。先生は、日本の「二割司法」の打破を一つの目標に司法制度改革に取り組まれ、その一環として潜在的な司法の需要に応えるべく司法試験合格者数の増加に尽力されました。しかしながら、弁護士の需要は見込まれたほどではなく、「司法制度改革は失敗」というレッテルを貼られてしまいます。司法制度改革が失敗した要因の一つとして先生が挙げられたのが、日本の訴訟制度の問題点でした。まず、費用の問題です。印紙代が高額であるのはもちろん、損害賠償も実額補償で見返りが多くありません。続いて、判決の執行です。民事執行は現行法では未完全なようで、勝訴しても判決が執行されなければ意味がないと人々が考えるので、なかなか裁判沙汰になりません。証拠収集にも問題があるなど、現状の司法制度には問題点が山積しています。また、認知されていない裁判制度より、いわゆる整理屋、事件屋、ヤクザ、地域の有力者を通じた解決がなされたり、破産者や被害者が泣き寝入りする構図が、現在もなくなっていないようです。つぎに、活躍の場の話です。先生がおっしゃっていたのは、外国語の大切さと働き方の多様さでした。弁護士事務所には英語ができる人を求める依頼が多くなっているそうです。グローバル化に伴い海外との取引は増え、中小企業なども英語ができる弁護士を必要としているようです。英語ができれば海外に赴いて活躍することもできますが、日本はその点において後れを取っているようです。例えば、韓国はエンターテイメント関連の契約等のために1万人もの弁護士をアメリカに送っているそうですが、日本は全然人が足りていないようで、このままでは国際競争に勝つことはできないようです。

今回の講演会は、今後の法学部での学習の一つのヒントとなる有意義な講演会でした。実務ではどんなことが起きているのか、また実務ではどんなフィールドが広がっているのか、について知識を深めることができました。ビジネスの場で活躍したいから弁護士に興味がないという人もいるかもしれませんが、弁護士の活動場所は法廷だけではありません。早稲田の法学部で学んでいる仲間から、将来日本のみならず世界の様々なフィールドで活躍する弁護士が生まれることを願ってやみません。

宮﨑　誠 弁護士

主なご経歴

京都大学法学部卒業後、弁護士法人大江橋法律事務所設立、2004年～2005年 大阪弁護士会 会長、2008年～2010年 日本弁護士連合会 会長、2013年～2014年 内閣官房法曹養成制度改革顧問会議　顧問、2014年4月～2018年4月 日本司法支援センター（法テラス）理事長を務める。

新任教員紹介

2018年4月から早稲田大学大学院法務研究科の専任教員等として着任された先生と助手の方々をご紹介いたします。（資格、氏名五十音順）

酒巻（さかまき）　匡（ただし）　教授

主な研究テーマ：刑事手続法

主な経歴：

1981年東京大学法学部卒業、東京大学法学部助手、神戸大学法学部助教授、同教授、上智大学法学部教授、京都大学大学院法学研究科教授を経て2018年4月より現職。京都大学名誉教授。この間、日本学術振興会海外特別研究員（ミシガン大学法科大学院で研究に従事）、司法試験考査委員（刑事訴訟法）、裁判員制度・刑事検討会委員、京都大学法科大学院長、法制審議会・新時代の刑事司法制度特別部会委員等を務める。

ひとこと：

30余年の法律教師としての経験と、裁判員制度等刑事司法制度改革立法の具体的設計に携わった経験を踏まえて、刑事手続法の理論的基礎と刑事司法実務への架橋の道筋を学生の皆様に伝授するよう努力したいと念じています。

髙田（たかだ）　昌宏（まさひろ）　教授

主な研究テーマ：

民事訴訟法（証拠法、集団的権利保護訴訟ほか）、非訟・家事事件手続法

主な経歴：

早稲田大学法学部卒業、早稲田大学法学部助手、専任講師、助教授を経て、1997年、同学部教授。2001年、大阪市立大学法学部（翌年、同大学院法学研究科）教授。2017年、早稲田大学法学部教授。今年4月より現職。

ひとこと：これまで、自分の専門である民事訴訟法の研究・教育に従事してきましたが、学問上の疑問は増える一方です。民事訴訟法は、勉強していて十分に理解できたとの実感をもちづらい法分野のように思いますが、授業では、同法の基礎理論についての理解を確かなものとすると同時に、現在の民事訴訟法が直面する課題に主体的・自発的に取り組む姿勢を培うことができるよう心がけたいと思います。

中本（なかもと）　香織（かおり）　講師

主な研究テーマ：

民事手続法（民事手続法における当事者適格）

主な経歴：

早稲田大学法学部卒業、早稲田大学大学院法務研究科修了、同法学学術院（法学部）助手を経て、4月より現職。

ひとこと：

未修コースに入学し、ロースクールに3年間在学していました。振り返ると非常に充実した3年間を過ごすことができたと思いますし、法曹ではなく研究者を目指したきっかけも、ロースクールでの授業や勉強にあります。在学中の自分自身の経験を踏まえて、皆さんのサポートに全力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

髙橋（たかはし）　宗吾（そうご）　助手

主な研究テーマ：

刑事弁護実務、臨床法学教育

主な経歴：

早稲田大学法学部卒業、早稲田大学大学院法務研究科修了。弁護士として早稲田リーガルコモンズ法律事務所に所属しながら、本年4月より本学法務教育研究センター助手に就任。

ひとこと：

弁護士としては、裁判員裁判を含む刑事事件を中心に扱っています。法務研究科在学中の様々な人との出会いが、弁護士としての自分の礎になっています。法務教育研究センターの助手として、また、稲門法曹の一員として、法曹という仕事の魅力や、早稲田の法務研究科の先進性を広く発信していきます。

卯木（うき）　叙子（あきこ）　助手

主な研究テーマ：企業の法務部員教育における臨床法学教育の応用

主な経歴：

早稲田大学法学部卒業（後藤巻則教授ゼミ履修）、早稲田大学大学院法務研究科修了。渋谷パブリック法律事務所に在籍し、國學院大學法科大学院の非常勤講師として勤務後、本年4月より、新目白通り法律事務所を開業し、本学法務教育研究センター助手に就任。

ひとこと：前職では臨床法学教育や地域の方の法律問題に関わって参りました。現在、都電早稲田駅から徒歩約1分の場所で、大隈通商店街の方々と地域交流をしながら弁護士業務を行っています。7年間を過ごした本学で業務に従事させて頂けることを大変に光栄に感じています。日々出会いに感謝し、早稲田の魅力を多くの方々に伝えて参りたいと思っております。

キャロル・スズキ教授講演
「ソーシャル・イノベーターとしてのアメリカのロースクール ―臨床法学教育の挑戦―」ご報告

＜講演内容＞

大学院法務研究科 非常勤講師　白木（しらき）　敦士（あつし）

2018年4月25日に、アメリカのニューメキシコ大学ロースクール教授のキャロル・スズキ先生をお招きして、標記のテーマでご講演いただきました。甲斐克則研究科長にご臨席いただいた他、40名を超える方々が参加されました。

スズキ先生は、アメリカ・ロースクール協会臨床法学教育部会長を務められた経歴を持ち、15年に亘りアメリカ・ニューメキシコ大学のロースクールにて臨床法学教育に携わってこられました。スズキ先生は、ロースクール及び学生が、臨床法学教育を通じて、主体的にイノベーションを拡散させていく過程を理論的に分析した上で、その具体例を紹介されました。2017年に、イスラム教徒が多数を占める国々からの入国を禁止する大統領令に対して、イエール大学の臨床法学教育プログラムが中心となり、差止訴訟を提起し、実際に差止決定を得た例などが紹介されました。

臨床法学教育の本場であるアメリカの実践報告を通じて、臨床法学教育の潜在的可能性に触れることができました。

＜講演の感想＞

大学院法務研究科1年　尾川（おがわ）　佳奈（かな）

キャロル・スズキ教授の講演は、ニューメキシコ大学（以下「UNM」という。）ロースクールのミッションや取り組みを知ると同時に、今後の日本のロースクールのあり方について考える契機を与えてくれるものでした。

UNMロースクールでは、臨床法学教育を通して、社会正義を実現する法律の専門家を養成するというミッションのもと、様々な臨床法学プログラムが行われています。学生は、人種差別の歴史を思わせる法令の撤廃等のアドボカシー運動を行ったり、2017年にトランプ大統領によりイスラム圏の国々に対する入国禁止措置がとられた際には、何千人もの弁護士・ロースクール生を空港に動員し、入国ができない人々に対する支援が行われました。

ロースクールの学生にとって、実際の依頼者の問題解決の支援を行うことは、法律家としてのアイデンティティを確立し、その能力を養うことに役立つと考えます。しかし、それだけではなく、アメリカでは法的サービスを行き届かせ、社会正義を広めるために、ロースクールの学生は必要不可欠な存在であると考えられています。

社会を巡る大きな問題が発生した際に、素早くその問題に対処することや、法的サービスを広め、日々社会に貢献していくことは、アメリカのロースクールと同じく、今後の日本のロースクールにとっても重要な意義となり得るのではないでしょうか。

稲門医師会・稲門法曹会合同シンポジウム 開催

2018年3月25日(日)に東京市ヶ谷に於いて、第2回稲門医師会・稲門法曹会合同シンポジウム《第8回医療法学シンポジウム》が行われました。

稲門法曹会では、稲門医師会と合同で毎年シンポジウムを開催しております。

今年度は「無過失補償制度」をテーマにおいて、患者、現場の医師、国際比較の研究者、司法専門職を演者とし、参加者の皆様と多面的な公開討論が行われました。

ロースクール稲門会イベント

早稲田ロースクール稲門会　理事　渡部（わたなべ）　貴之（たかゆき）

1　就職情報交換会・司法試験慰労会の実施

2018年6月2日、8号館にて、早稲田ロースクール稲門会（以下、「WLS稲門会」といいます。）主催（法務研究科キャリア支援室共催）の就職情報交換会を開催しました。9回目となる本年は、約40名が参加する中、法曹三者や官公庁で活躍する5名のOBOGが就職活動のアドバイスや現在の仕事内容について、講演をされました。

また、同日、リーガロイヤルホテルにて、司法試験の受験生を対象に、恒例の司法試験慰労・激励懇親会を開催しました。参加人数は約50名で、甲斐教授をはじめ多くの先生方、AA、ロースクールOBOGにもご参加いただきました。

ご参加、ご協力頂いた皆様には心より感謝申し上げるとともに、このような企画を継続していくためにも、OBOGの皆様におかれましては、より一層のお力添えを宜しくお願い致します。

2　WLS稲門会とは？

WLS稲門会は、同ロースクールの修了生が自動的に加入する同窓会組織です。小野梓記念館という同じ屋根の下で学んだ者同士、縦にも横にも懇親の輪を広げようという趣旨で設立されました。

なお、類似した別組織として、稲門法曹会があります。同法曹会は、司法試験に合格し、かつ校友である者が加入しており、早稲田大学卒業者で他大学のロースクールに行った者も加入しています。対して、WLS稲門会は、司法試験の合否に関係なく同ロースクールを修了した者が加入する組織です。

別団体ですのでご注意ください。

3　WLS稲門会の会費に関して

WLS稲門会の年会費は3000円です。年会費をお支払いいただくための書類を、随時送付させていただく予定です。何卒、よろしくお願い申し上げます。

法律事務所・企業による合同説明会　開催報告

大学院法務研究科キャリア支援室では、2018年5月23日(水)および25日(金)に27号館教室にて、修了生対象に「法律事務所・企業による合同説明会」を開催いたしました。合計で法律事務所3所・企業16社の採用ご担当者や法務ご担当者に、採用情報や業務内容のご説明、就職活動のアドバイス等をいただきました。本年度同キャリア支援室では、9月の司法試験合格発表後に、同様の説明会を開催する予定です。参加をご希望の方はぜひお問い合わせください。

■早稲田大学大学院法務研究科キャリア支援室Webサイト
https://www.waseda.jp/folaw/gwls/career/

「梓」送付停止や、送付先のご住所・ご勤務先の変更等をご希望の場合は、以下の申請フォームにて申請をお願いいたします。
代理の方による申請も可能です。

＜申請フォームURL＞
https://www.waseda.jp/folaw/gwls/alumni/wls-news-letter/

早稲田　梓　検索

稲門法曹奨学金へのご寄付についてのお問合せ
早稲田大学大学院法務研究科
Tel：03-5286-1678　Fax：03-5286-1720

2018年9月1日　発行
編集・発行　早稲田大学法務教育研究センター
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1－6－1
Tel：03-3208-9592 ／ Fax：03-5286-1720
Email：law-school-cpler@list.waseda.jp
http://www.waseda.jp/folaw/cpler/